

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

『メタバースとWeb3』

國光宏尚著 エムディエヌコーポレーション
197頁 1500円＋税

2021年から今年にかけてメタバースやWeb3が世界的なキーワードになっているそうです。残念なことに私には意味が分かりません。でも、きっと大事な言葉だと思うのです。ということで本屋さん何冊か並んだ関連本から、文字数が一番少なく思えたこの本を買ってみました。以下、かいつまんで中身をご紹介します。わからない言葉もあるかもしれませんが、気にしないでそのまま読み進めましょう。

★Webの流れ

- ・ iPhoneが発表されたのは2007年、今はモバイルファーストの時代となった。
- ・ メタバースとWeb3によって、バーチャルファーストに向かっている。
- ・ Web1でインターネットが普及し始め、Web2では、SNSや動画共有サービスなどの普及によりReadだけの時代からRead+Writeの時代になった。この時代、データの所有権は巨大IT企業が握っていた。Web3では、所有権が個人であるユーザーに移る。
- ・ Web3の特徴は、ブロックチェーン、NFT、DAO。NFTは、バーチャルファーストなコンテンツフォーマット。DAOは、バーチャルファーストな組織の形。

★具体例

事例①バーチャルライブ

VR空間にライブの臨場感を再現することで、YouTubeや、離れた場所にいながらライブやコンサートを体験できるサービス

事例②ファッション・旅行業界

・ ナイキ：ゲームプラットフォームRoblox内において、無料の三次元空間を開設しメタ

バースに参入。モバイル機器に内蔵された加速度センサーを使用し、オフラインの動きをオンラインに反映させる取り組みもある。

③金融とGameFi

金融の代表的な事例としてプラットフォーム「コンパウンド」がある。特定の仲介者や管理人を置くことなく、暗号資産の貸し手と借り手がつながられている。金融機関よりも高い金利で預けられ、保有している資産を担保に別の暗号資産を借りることもできる。管理者を通さないため手数料は安い。

GameFiは、オンラインゲームをすることで、ユーザーが暗号資産を稼ぐことができる仕組み。

コンパウンドにしてもGameFiにしても投機につながることもあり個人の判断で慎重に行うべきだ。

④バーチャル渋谷

コロナ禍を背景に2020年に誕生した渋谷区公認のプラットフォーム。コロナ禍によって人が激減した中で渋谷という町を新たに変わっていく試み。バーチャルイベント会場とデジタルツイン（ミラー・ワールド）が体験できる。クリスマスイベントや20日間に及ぶライブイベントなどで人気を博した。

⑤クラブトークン

ブロックチェーン技術を活用した、これまでにない新しいかたちの「ファンサービス&クラブ応援ツール」。欧州をはじめとする海外では、すでにさまざまなプロスポーツチームで活用されている。しかし、日本の認知度は低く、プロサッカーでは湘南ベルマーレが初の試みとなった。トークンはブロックチェーンで発行・管理され、売買に応じて価格が変動する。

いかがでしたか。大変動です。

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

4つの法則

日経ビジネス（5月23日）に買わせる心理学という記事がありました。面白いのでかいつまんで紹介いたします。

1. 得をするより損が嫌

・住友生命保険：運動習慣を継続するためのバイタリティという保険は、基本料金から15%割引かれたステータスでスタートする。運動を怠るなどしてポイントを獲得できないと1年後に割引率が縮小する。ポイント獲得のための運動目標設定期間として1週間といった短い期間も用意している。遠くのメリットより近くのメリットの方がインパクトがあるからだ。

2. 見える範囲で短絡判断

人間には「自分の経験や記憶を基に、深く考えずにパパッと判断してしまう傾向」がある。

3. 並べ方で変わる印象

松竹梅の法則といわれるものがある。価格が高い順に「松」「竹」「梅」と並べられた商品を消費者が購入する割合は、一般的に「松：竹：梅＝2：5：3」となるとされる。売りたい商品が竹の位置に来るように価格設定をすればよい。

4. 高い安いはものさし次第

人は、基本価格を最初に提示されると、その後に見せられる割引価格を安く感じる。また、「5万円⇒4万円⇒2万円」と複数回にわたり価格を割り引いていく方が消費者により響く。

この日経ビジネスで紹介しているのは行動経済学という分野で広く知られていることです。実際に役立つ経済学です。ぜひ、関連の本を書店でご覧になってください。

補助金・助成金

補助金・助成金でネット検索するといっぱいヒットします。IT導入、消費税改正、コロナ、電子帳簿など取り組まなければならないことがいっぱいあることに関係しているのでしょう。

補助金、助成金について、注意しなければいけないことがあります。これをすれば補助金をもらえるから、やってみようとか、これを買えば補助金をもらえるから、買おうとかです。補助金をもらうことが目的になると失敗することが多いようです。事業では必要なことと必要でないことを区別しなければいけないのですが、区別する目が補助金によって曇ってしまうのだと思います。リスクが見えなくなるのです。

したいことがある、必要なものがある。補助金をもらえるか探してみようというのが本来の補助金の活用方法だと思っています。

したいこと、必要なものをまず見つける。それから補助金です。したいこと、必要なものを見つけるのは簡単ではありません。ところが補助金をもらうのは、それに比べれば簡単です。何かをすればもらえる、何かを買えばもらえるのです。前項「4つの法則」の「得をするより損が嫌」＝「もらわないと損」、
「見える範囲で短絡判断」＝「買えばいいもの、すればいいことが簡単にわかる」というワナが補助金、助成金にはあります。

ただ、「補助金、助成金」で検索すると、世の中の動きがわかるというメリットがあります。なるほど、こういうことをすれば補助金をもらえる、ということは、世の中はこういう動き方をしているかもしれない、などです。

とりあえず、検索してみますか？